

神田外語大学 留学生別科

2023年 秋学期

# 科目概要

## 【選択科目】



# 目次

科目名	履修できるレベル							ページ
	1	2	3	4	5	6	7	
発音1・2	●	●						... 1
発音3・4			●	●				... 3
発音5・6					●	●		... 5
自律学習1・2・3	●	●	●					... 7
自律学習4・5・6				●	●	●		... 9
読む聞く1・2	●	●						... 11
読解3・4			●	●				... 13
読解5・6					●	●		... 15
初級文法演習3・4			●	●				... 17
中級文法演習4・5				●	●			... 19
口頭表現2・3		●	●					... 21
口頭表現4・5				●	●			... 23
口頭表現6・7						●	●	... 25
文章表現4・5				●	●			... 27
文章表現6・7						●	●	... 29

科目名	履修できるレベル							ページ
	1	2	3	4	5	6	7	
ビジネス文化入門4・5				●	●			... 31
ビジネス文化入門6・7						●	●	... 33
社会文化入門1・2・3・4	●	●	●	●				... 35
社会文化入門5・6・7					●	●	●	... 37
時事日本語6・7						●	●	... 39
<i>Japanese Sociolinguistics</i>	●	●	●	●	●	●	●	... 41

\* 科目概要の内容は変更される場合があります。

発音1・2 (b)	若月 理恵	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

**使用言語** 日本語

**授業時間** 週1回(90分×週1回×15週)

**履修人数制限**

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

**授業概要**

このコースでは、音や拍・リズム、アクセント、イントネーションなどの日本語の発音について勉強します。

コース終了後にも、継続して自分の発音を内省し学習できることを目標とします。授業ではそのための下地作りとして、自分の発音の特徴やクセを理解し、自分に合った練習方法を考えます。

ほぼ毎回、課題として録音データを提出します。翌回のフィードバックでは、クラスメイトと録音内容を聴きながら気づきを共有します。

コース開始時と終了時に、同じ内容の発話を録音し、ビフォーアフターを比べます(最終課題)

**学習内容(予定)**

履修学生の母語、ニーズにより、内容、回数は柔軟に対応します。

- ・自己紹介とその時に注意すべき点
- ・日本語の五十音(清濁音、拗音を含む)
- ・拍とイントネーション
- ・特殊音(長音、促音、発音)
- ・動詞、形容詞、名詞のアクセント

## 教材

内容によってハンドアウト配布予定

<主な参考教材>

『毎日練習!リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク

『初級文型でできる にほんご発音アクティビティ』アスク

『シャドーイングで日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク

OJAD(Online Japanese Accent Dictionary) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

## 成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

## 履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業では全体活動の一環として、発音の修正を受けたり、発音データを聞いてコメントを出しあう機会が多くあります。臆せず発信しましょう。
- ・授業内で課題の録音活動を行います。スマホなど、mp3またはmp4で音声データの録音および提出ができるデバイスを持参してください。
- ・フィードバックには講師と1:1でのコンサルテーションを含みます。録音データを聞くのため、有線のイヤフォン／ヘッドフォンの持参を薦めます。

発音3・4 (b)	上原 由美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、音や拍・リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの日本語の発音について勉強します。

授業では、発音の練習方法やツールを紹介します。その中から、自分に合う方法やツールで練習して、苦手な発音を直します。また、クラスメイトとの発音練習や活動をして、教師やクラスメイトにフィードバックをもらいます。

授業中に勉強した内容をレコーディングして、提出することを課題とします。また、学んだ発音のルールに気をつけながら、やや長いダイアログや文章をレコーディングして提出することを最終課題とします。

※授業内容は変更する可能性があります。

学習内容(予定)

拍とリズム

アクセント

イントネーション

長音・促音・撥音

区切り、ポーズ／プロミネンス

発音に気をつけて自己紹介をする

ニュースや会話ダイアログを読む

### 教材

授業で配布、紹介します。

OJAD(Online Japanese Accent Dictionary) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

### 成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

### 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

スマートフォンなど音声を録音できるデバイス、そして音声を聞くヘッドフォンを持参してください。

授業では、教員やクラスメイトから履修者の発音に対してフィードバックがあります。自分の間違いを恥ずかしがらずに、たくさん練習できる方を歓迎します。

発音5・6 (b)	稲葉 和栄	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		火曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が10名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日本語の音やリズム、アクセント、イントネーションなど日本語の発音に関するさまざまな要素について学びます。個人練習だけでなく、ペアやグループ練習を行いながら、自分の発音上の問題点に気づき、それに必要な練習を行います。

授業では、各学生が自分の発音を録音し、それを教師やクラスメイトと一緒に確認し、課題や改善点を考える活動も取り入れます。

この授業の1つめの目標は、教師やクラスメイトのフィードバックを得ながら、自分の発音の特徴を理解することです。2つめの目標は、自分の特性に合わせた効果的な発音の学習方法は何かを考え、教室以外でも持続して自分の発音に意識を向けられるようにすることです。効果的な学習方法を探るために、「発音や音声の基本的な知識(知識)」「音を聞き理解できる練習(理解)」「音を出す練習(産出)」を授業で扱います。説明はすべて日本語でおこないます。また、発音練習に役に立つ動画の紹介やインターネットツールも授業の中で紹介します。2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。

学習内容(予定)

授業で扱う、具体的内容を以下にいくつか挙げます。履修する学生のニーズに合わせて、授業で取り扱うトピックは、履修する学生のニーズに合わせて柔軟に対応していきます。

- ①印象に残る自己紹介と発音
- ②日本語の音(五十音・外来語音(例:カタカナで表記される音)など)
- ③日本語のリズムと拍感覚(例:フット)
- ④話し言葉の発音(縮約形(例:パソコン)、無声化(例:「山田です」の「す」)  
話し言葉のロールプレイ(ペア・グループワーク)
- ⑤名詞のアクセント(頭高型・中高型・尾高型・平板型・アクセント核)
- ⑥イ形容詞と動詞のアクセント(活用語尾のアクセント)
- ⑦イントネーション(イントネーションと表現意図(例:上昇調・下降調・平調))

## 教材

『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 戸田貴子 著、スリーエーネットワーク、3,300円、 ISBN: 9784883192953

## 成績評価

授業参加度 20%

課題(録音提出含む) 60%

発表(ロールプレイ)20%

## 履修上の注意点

課題の発音を録音し提出するために、スマホやICレコーダーを準備すること。

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

クラスメイトの前やペアで自分の発音を発表したり、録音した発音をみんなと一緒に聞いてフィードバックをもらう活動があります。自分の発音に対してみんなの意見を聞くのと同時に、クラスメイトの発音に関しても自分が気が付いたことを発信しましょう。

自律学習1・2・3 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は伸ばしたいと思う技能や知識、興味のあることなどについて目標や学習内容を自由に決め、学習計画を立てて、学習を進めます。毎回の授業が終わったときに、「その日の学習がどうだったか」をふりかえって学習ログに書きます。教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関するアドバイスをしたりして、学生が自分にあった学習の方法が見つけれられるよう協力します。学生は、学習方法などを教師に相談することができます。

※自分の好きなテーマを選んで、関連のある日本語を学習することもできます。

※サイクル1、サイクル2、サイクル3で同じテーマを選んでもかまいません。また、違うテーマを選ぶこともできます。

学習内容(予定)

1学期に3サイクル行います。1サイクルの最後(5回目)に、クラスメイトと学習成果や学習方法などについて発表・共有します。また、次のサイクルの目標を立てて、学習を進めます。

1回目	目標と学習計画を立てる。	×3サイクル
2回目	自分が計画した学習をする	
3回目	自分が計画した学習をする	
4回目	自分が計画した学習をする	
5回目	学習成果やふり返りを発表(共有)する。 次のサイクルの目標を考える。	

### 教材

授業で配布、紹介します。

### 成績評価

授業参加度 20%

課題(学習計画・学習ログなど)60%

発表・共有 20%

### 履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- ・授業中は、自分で立てた目標にしたがって学習を進めます。他のクラスの課題やテストのための勉強などをすることはできません。

自律学習4・5・6 (b)	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日2限

**使用言語** 日本語

**授業時間** 週1回(90分×週1回×15週)

**履修人数制限**

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

**授業概要**

このコースは日本語能力および自律学習能力を養うことを目的とします。学生は自分で作った計画に基づき、伸ばしたいと思う技能や知識を選び、学習を進めます。そしてその学習がどうだったか、終わったときに振り返りをします。

教師は、学生に教材や学習方法を紹介したり学習に関する様々なアドバイスをしたりすることを通して、学生が自分にあった学習の方法が見つけれられるよう協力します。

※マンガ、音楽、料理、ファッションなど自分の好きなテーマを選んで、関連のある日本語を学習することもできます。

※サイクル1、サイクル2、サイクル3で同じテーマを選んでもかまいません。また、違うテーマを選ぶこともできます。

**学習内容(予定)**

全体を3つのサイクルに分けて、自分の学習を行います。(学習計画と目標設定、毎週の学習、サイクルのふりかえり)。そのほかに効率的な学習の方法を勉強します。

**教材**

授業で配布、紹介します。

## 成績評価

授業参加度 20%

計画と振り返り 60%

課題 20%

## 履修上の注意点

- ・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となる。
- ・毎回の授業に出席し、学習した内容は必ず報告する。
- ・自律学習の時間に他の科目の課題をしない。
- ・自律学習の時間は自由時間ではないので、関係のないことはしない。
- ・サイクルに入ったら計画していないことを勉強してはいけない。(「来週他の科目のテストがあるから今日は学習計画にある勉強をしないで、来週のテストの準備をする」「今日の午後プレゼンテーションがあるから、その準備をしたい」などは不可)

読む聞く1・2 (b)	高橋 亘	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、さまざまな読み・聞き of 自律的な活動を通し、読解力と聴解力を総合的に伸ばすことを目的としたコースです。

学習内容(予定)

授業には「読む時間」「聞く時間」「活動の時間」の3つがあります。

「読む時間」「聞く時間」では、クラス全員で同じものを読んだり聞いたりするのではなく、一人一人が自分で読みたいもの・聞きたいものを選び、各自で読む・聞くを行います。講師が用意した本やCD、オンライン上のリソースを使って、自分の興味のある教材をたくさん読み、たくさん聞く、自律的な「多読・多聴」を行います。

本の朗読を聞きながら読んだり、日本語の動画を見ながら聞いたりすることもできます。

授業で読んだり・聞いたりしたものについては、学習記録(タイトルや楽しさ、感想など)を書きます。自分の記録なので母語での記入も可能です。

「活動の時間」では、その日に読んだ本の印象的なことばやページ、好きな登場人物をクラスメイトと共有するブックトークを行います。他にも、キャラクターに手紙を書いたり、話の続きを考えたり、ブックレビューを書いたりなど、いろいろなアクティビティをします。

コースの最後には、多読・多聴でインプットしたことを使って自由に表現する作品制作を行います。

す。創作物語や旅行日記、母国の文化や伝説、マンガやゲームなど、自分のアイデアを自由に表現するプロジェクトです。ビジターを招いて作品の発表会を行います。

### 教材

授業で配布、紹介します。

### 成績評価

授業参加度 40%

課題 60%

### 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業ではオンライン上のリソースも使います。ノートPCやタブレット、イヤホンを持参してください。

読解3・4 (b)	李 榮	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

授業では様々なタイプの文章を通して、日常的で身近な話題、あるいは自分が興味のある話題等のテキストの内容が理解できるようになることを目指します。

学習内容(予定)

初中級レベルの様々な読み物を読んで、日本語で書かれた文章を理解するための知識を増やし、「読む力」を身につけます(トピックは、学期によって異なります)。授業は、以下のような流れで進めます。

- 1) 授業の前に、必ず、漢字の読み方や単語の意味について、予習してきてください。
- 2) 授業では、読み物の内容について仲間と話し合いながら読み進め、理解を深めます。
- 3) 読み終わったら、理解したことを「文章でまとめて」提出してください。
- 4) 学期の最後には、興味のある読み物をひとつ選んで、その内容について発表します。

## 教材

授業で配布、紹介します。

## ※参考書

『日本語学習者のための 読解厳選テーマ25+10 [初中級]』清水正幸・下郡麻子・沖中晃子 凡人社

『「再話」を取り入れた日本語授業 初中級からの読解』小河原義朗・木谷直之 凡人社

## 成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%

課題 50%

最終課題(発表)20%

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。

読解5・6 (b)	藤岡 亮子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日4限

**使用言語** 日本語

**授業時間** 週1回(90分×週1回×15週)

**履修人数制限**

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

**授業概要**

- ・日本語の文を読む技術(読解ストラテジー)を理解し、練習します。
- ・日常生活に必要な文章、日本に関する評論や新聞記事、社会的・専門的な文章を読んで理解を深め、話の流れや著者の考えを理解します。
- ・文章を読んで、さらに調べたり、自分の考えをまとめて討論したりします。

**到達目標**

- ・日本語の様々な文章を読む技術<読解ストラテジー>を身につける
- ・わかりやすい説明文や論説文を読んで、文章の内容を理解することができる
- ・社会的・専門的な文章の内容を理解することができる

**学習内容(予定)**

- I. 読解ストラテジーの理解と練習
- II. 様々なタイプの文章の読解
  - ・日常生活での読み物(観光パンフレット、ニュース記事など)
  - ・日本に関する読み物(例:日本人の行動様式、日本語、文学作品、時事など)
  - ・各分野に関する読み物(例:メディア、科学技術、教育、通訳、環境など)
  - ・専門性の高い文章

## 教材

授業で配布する。

## 成績評価

授業参加度 20%

課題 I 50%

課題 II 30%

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

初級文法演習3・4 (b)	上原 由美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

初級後半の文法を復習します。初級から中級に進むために大切な文法、特に使い方が難しい文法について復習しながら、聞く・読む・話す・書く活動やグループワークを通して、コミュニケーションの中で使えるように学習します。主に扱う文法は、授受表現(てもらう、てくれる等)、受身、使役、敬語、条件、推量(そうだ、らしい等)、丁寧な表現で使われる文法などです。

主に、レベル4の学生と、レベル3ですでに初級の文法を一通り学習したことがある学生を対象としています(上記の文法を学習したことがない学生は、毎週かなりの予習が必要となります)。「初級文法は一通り勉強したが、よくわからない。知っているけど使い方が難しい」と感じている学生に特に勧めます。

学習内容(予定)

教科書の以下の課を中心に学習します。

- ・14課「様子・状態・比況・例示」
- ・15課「推量」
- ・16課「条件」
- ・17課「授受」
- ・18課「使役」

・19課「受身・使役受身」

・20課「敬意」

この他に、助詞、活用、接続など間違えやすい文法についても毎回少しずつ復習します。

毎回、グループで読んだり、書いたり、話したりする活動もします。

1課が終了するごとにクイズをします。毎週課題があります。

## 教材

『どんなときどう使う 日本語表現文型200』アルク

その他、聞く教材、読む教材などを授業で配布します。

## 成績評価

授業参加度 20%

クイズ 30%

課題・宿題 30%

アクティビティ(グループワークなど)20%

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

中級文法演習4・5 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		水曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

学習する文法を用いた活動をしなが、文法の意味や用法、使い分けを理解して、文法能力を高めます。また、文法の学習のしかたを身につけます。

授業は学生が予習(テキストを読んてくること)を前提に行います。

学習内容(予定)

教材テキストの以下の課を扱います。

- ・5課(時間的同時性・時間的前後関係)
- ・6課(進行・相関関係)
- ・7課(付帯・非付帯)
- ・8課(限定)
- ・9課 I (非限定)
- ・10課 II (対比)
- ・11課(判断の立場・評価の視点)

・クラスでは、学習する表現について学習者同士で教え合ったり、表現を用いた活動をしたりします。活動をしながら、その文法をいつ、どういう場面(ばめん)でどんな気持ちで使うかを理解します。

・文型とよく一緒に使う語の学習も行います。

・N3・N2の表現を学びます。(N1の表現は扱いません)

・1～2課が終了するごとに、クイズをします。

・1課が終了するごとに、学んだ文法を使った文や会話を作る課題を出します。

## 教材

『どんなときどう使う 日本語表現文型500』アルク

## 成績評価

授業参加度 10%

振り返り 20%

クイズ 30%

課題 40%

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

口頭表現2・3 (b)	小林 久美子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

学習内容(予定)

「あいさつや自己紹介をする」「場所・時間・値段を聞く」「日頃のルーティンや週末の過ごし方について話す」など、日常的なトピックを取り上げ、モデル会話を勉強します。その後、ペアやグループで短いスキットを作り、練習をします。練習が終わったら、動画を撮って提出してください。また、ビジターセクションでは、習った表現を使って、「初めて会う人」と会話をします。学期の最後には、おもしろい動画を作って、発表会をします。

教材

授業で配布、紹介します。

※参考書

「新・わくわく文法リスニング100—耳で学ぶ日本語—」小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子 凡人社

「新・シャドーイング 日本語を話そう！初～中級編」斎藤仁志・深澤道子・掃部知子・酒井理恵  
子・中村雅子・吉本恵子 くろしお出版

### 成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

### 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。

口頭表現4・5 (b)	李 榮	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

学習内容(予定)

口頭表現4・5は、「Task先行型のロールプレイ」を使って日常生活で遭遇する場面や状況に必要な口頭表現を学習します。

- ・ 毎回の授業では、これまで学習した日本語を使ってロールプレイ(role play)に挑戦します。ロールプレイをしたあとで、ロールプレイを振り返って場面や状況に適した日本語表現を確認します。また、その日に学習した表現を各自で練習し、録音/録画して提出します。
- ・ コースの後半では、最終課題として「スキット作成」に挑戦します。スキットは、自分の経験に基づいた会話場面を設定し、その場面でどのように話したら良いかやその場面で使う日本語の表現を調べて作ります。

以上の15回の授業を通して、日常生活で遭遇する日本語でのコミュニケーション場面を自分で振り返り、必要な口頭表現を学んでいく力を養うことを目指します。

## 到達目標

### (1)言語能力(Linguistic Competence)

日常生活の場面で自分に必要な語彙や表現を整理し、実際のコミュニケーション場面における使い方を理解する。

### (2) 社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)

相手や場面に応じて適切な言葉や表現を選んで使い分けることを意識できる。

### (3) 社会文化能力(Sociocultural Competence)

日常のコミュニケーション場面において、出身国やこれまで滞在したことがある国と日本との違いを理解し、コミュニケーションの時に気をつけることができる。

## 教材

授業で配布、紹介します。

### ※参考書

「新版 ロールプレイで学ぶ 中級から上級への日本語会話」山内博之 凡人社

「新 にほんご会話トレーニング」小林ひとみ アスク

## 成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

## 履修上の注意点

- ・ 2学期間在籍する学生が、この科目を1学期目に履修し単位を取得した場合、2学期目に続けて履修することはできません。
- ・ 授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。
- ・ 毎回の授業で他のクラスメートの前でロールプレイをしたり、話し合ったりします。

口頭表現6・7 (b)	藤岡 亮子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		月曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、よりよいコミュニケーションを遂行するための場面・機能に応じた日本語の口頭表現方法を学びます。

口頭表現6・7では、社会的・専門的な内容について、スピーチ・会話・ディスカッション・ディベートなどを行います。

到達目標

・時事的・専門的な事について、根拠のある意見を述べながらディスカッションやディベートができる。どんな場面や相手でも、適切な表現を使って、流暢に会話が続けられる。

・時事的・専門的な事について、論理的にまとめて発表できる。聞き手に配慮しながら、説明・論述できる。(東京外国語大学留学生日本語教育センター「AJ-Candoリスト」参考)

学習内容(予定)

I. 声を磨く...アナウンサーのトレーニング体験(伝え方・発音・活舌)

シャドーイング、朗読、演劇

II. 独話(友達の魅力紹介、なりきり通訳など)

III. やりとり(上級レベルの会話術・スキット作成、落語・小噺)

IV. ディベート(価値論題、政策論題)

## 教材

毎回プリントを配布します

## 成績評価

授業参加度 20%

課題 80%

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

文章表現4・5 (b)	藤岡 亮子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、書くことの総合的なスキルアップを目指し、文章を書くときに必要な日本語の語彙や表現、テクニックを身につける方法を学びます。また、クラスメイトや教師とアイデアや文章について話し合ったり、ツールの利用を通して、文章をよりよくする活動も行います。

学習内容(例)

以下のジャンルの文章を書きます。

- 1) 説明文(おすすめの場所、好きな日本文化、など)
- 2) メール(先生への質問、大学スタッフへの問い合わせ、など)
- 3) 随筆文(お気に入りのもの、最近考えていること、など)

教材

授業で配布、紹介します。

成績評価

授業参加度 20%

課題 50%

最終課題 30%

### 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業には、必ず自分のノートPCかタブレットなどのデバイスを持ってきてください。

文章表現6・7 (b)	加藤 林太郎	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、みなさんがこれまで学んできた日本語の知識と能力を活かし、その能力を社会的に使うことを目指します。また、身近にある日本語表現から自律的に学べるようになるための分析力も高めます。そして、授業で書いたものは実際にメーリングリストや掲示などを通して発信することで、実際に使える日本語の文章能力を身につけます。

<授業目標>

- ①日本語学習者であるみなさんの能力を活かせる文章を取り上げ、それぞれの表現上の特徴や必要なスキルを学ぶ
- ②実際に日本語で書かれたものを多く見たり読んだりすることで、いい表現の分析力を高める。
- ③文字を使ったタスクを通して、日本語で書くことへの苦手意識を解消する。

学習内容(予定)

- 1:さまざまな文体に触れる
- 2:「やさしい日本語」
- 3:ポスターを作る

#### 4: 翻訳をする

##### 教材

授業で配布、紹介します。

##### 成績評価

授業参加度30%

課題 70%(提出率30% 達成度40%)

##### 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業にはノートPC、タブレットなど、文章や資料を作成できるものを持参してください。

ビジネス文化入門4・5 (b)	若松 由美	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

ビジネス文化入門4・5では、アルバイトなど身近な場面や、将来、企業やその他の職場で必要とされるビジネス・コミュニケーションについて理解することを目指します。また、ビジネス場面で使われる日本語表現や、コミュニケーションに必要な日本語の使い方を学び、母国との違いなどについて考えます。

<授業の目標>

1) 言語能力

ビジネス日本語の基本的な表現を学び、実際に使えるようになる。

2) 社会言語能力

日本人と日本語を使う職場で仕事をするとき、どの程度の丁寧さで話すことが適しているかを理解する。

3) 社会文化能力

ビジネスの場面の短いスキットを使った練習をしながら、日本の仕事の場面、例えば就職活動をするときに、必要な社会文化を理解する。

将来のキャリアプランを考えるときに、これから先、日本の社会文化をどのように身につけていくべきかを含めて考えていくことができるようにする。

<毎回の授業の流れ> \*前半の回を例に

授業の前に事前に配布した資料を読み、各自予習の課題をします。

課題について考えたことをクラスで話し合います。

第1回は、社内と社外の自己紹介の違いを学びます。その後の前半の授業では、簡単なビジネスメールを実際を書く練習をします。また、電話応対を授業の中で練習します。ビジネスメールで書いたメールを課題として提出します。電話応対は会話を録音して、課題として提出します。

## 学習内容(予定)

第1回～第5回

社内と社外の自己紹介・ビジネスメールの書き方・電話応対(入門レベル)

アルバイトの履歴書の書き方

第6回～第10回

敬語(ウチとソトの使い分け)・ビジネスマナー(入門レベル)

第11回～15回

アルバイトや就職の面接の受け方(入門レベル)

ビジネスの場面でのプレゼンテーション(入門レベル)

(プレゼンテーションの仕方・スライドの作成・プレゼンテーションの練習・発表)

※発表が最終課題

## 教材

授業で配布、紹介します。

## 成績評価

授業参加度 20%

クイズ 10%(敬語)

課題 40%(各回の予習課題とまとめの課題)

最終課題 30%(ビジネス・プレゼンテーション)

## 履修上の注意点

課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

授業には、必ず自分のノートPCかタブレットPCを持参してください。

ビジネス文化入門6・7 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日3限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

グローバル化した社会において、異なる文化的背景を持つ多様な人々と働く場面は増えていきます。そのため異文化の人々とのビジネス場面で、お互いが予期しない衝突が生じることがあります。このコースでは、現実のエピソードをもとに描かれた異文化衝突のビジネス場面のケースを教材として、その問題点についてディスカッションし、協働的に解決方法を見出すことを目指します。また、ビジネス会話やビジネスメールに必要な表現を学び、母語との違いを理解します。

<授業の目標>

- ①フォーマルな場面やビジネス場面において適切なコミュニケーションができる。
- ②異文化のビジネス場面で生じる問題点を発見し、解決方法を見出すことができる。
- ③日本のビジネスの習慣や文化について知り、コミュニケーションに応用できる。

<授業の構成>

毎回の授業で、異文化のビジネス場面におけるケースの問題点を発見し、その解決方法について話し合います(ケース学習)。授業の前に、各ケースの資料を読んで、自分ならどう行動するかを考えてワークシートに書きます(事前準備の宿題)。問題解決のために必要なビジネス場面における習慣や文化、多様な考え方について学びます。

また、ビジネスコミュニケーションに必要な表現を学び、コミュニケーションに応用します。授業で扱ったビジネス日本語表現の確認のため、クイズを行います。

## 学習内容(予定)

第1回～第5回

ケース学習1-2・自己分析・ビジネスコミュニケーションのための表現1

\* 面接のための自己紹介の動画作成(課題)

第6回～第10回

ケース学習3-4・ビジネスコミュニケーションのための表現2・ビジネスメール

第11回～15回

ケース学習5-7・ビジネスコミュニケーションのための表現3・ケース学習の振り返り

\* ケース7についてのレポート(最終課題)

## 教材

プリント配布

## 成績評価

宿題 20%: ケース学習のワークシートやその他のワークシートを書いて提出。

クイズ 10%: 授業で学んだ表現を確認するクイズを実施。

振り返り 20%: 課題・最終課題のあとで自己評価・他者評価を書いて提出。

課題 20%: 面接のための自己紹介の動画を作成して提出。

最終課題 30%: 指定のケースに関するレポートを書いて提出。

## 履修上の注意点

1. クイズ以外の評価は日本語能力によっておこないません。
2. ディスカッション中心のクラスなので、積極的な参加が必要です。
3. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点になります。

社会文化入門1・2・3・4 (b)	若月 理恵	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、初中級の留学生のための日本と日本社会について理解を深めるコースです。言語は履修生の能力に合わせ、簡単な日本語と簡単な英語を使います。

授業構成

コースを通して、日本での生活をより楽しみ、日本の社会文化をより考えるためのきっかけとなる項目を取り上げます。

前半は万が一に備えての防災知識や、生活情報を学びます。

中盤以降では、日本の社会と文化について、調査やプロジェクトを通して学習します。学生の興味や疑問を積極的に取り入れながら、プレゼンテーションやグループディスカッションをして、様々な意見や考えを理解します。

学習内容(予定)

第1回: ガイダンス、アイスブレイク、アプリ/コミュニケーション手段の設定など

第2～4回程度: インフォメーションセッション

・防災知識、生活情報

・クイズの出題範囲となります。第5～12回程度: リサーチ & プレゼンテーションプロジェクト(最終課題)

・自分たちで興味のあることや知りたいことをリサーチします。KUISの学生にアンケートしたりインタビューしたりします。

・リサーチしてわかったことをまとめて、プレゼンテーションします。

・クラスメイトのプレゼンテーションを見た後、クラスで話し合います

第13～14回: ディスカッション・ラウンド

・クラスで決めたトピックについて話し合います

第15回: 振り返り

\* その他: 上記の他に、KUIS学生との合同授業など、交流イベントを行う予定です

## 教材

Google Classroom上で、必要に応じて配布、紹介します。

## 成績評価

授業参加度(出席 5%、ディスカッション等の貢献度 15%) 20%

クイズ 10%

課題(授業準備・宿題 10%、ふりかえり 20%) 30%

最終課題(準備 10%、プレゼンテーション 15%、Q+Aセッション貢献度 15%) 40%

## 履修上の注意点

・課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。

・クラスでは自分なりの意見や見解を述べることが求められます。簡単な日本語、または簡単な英語で意思疎通できることが必要となります。(辞書、翻訳ツール活用可)

・最終課題(リサーチ & プレゼンテーション・プロジェクト)では、各自PC/タブレットの持参が望ましい。

社会文化入門5・6・7 (b)	眞鍋 雅子	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		金曜日4限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースは、中上級の留学生を対象に、文化および社会について理解を深めるコースです。文化・社会を固定的にとらえるのではなく、話し合いや他者とのインターアクションによって様々な価値観を理解し、学習者が主体的に考えることを支援します。学習者は文化・社会に関するテーマで自分自身の「問い」を立て、学期中にグループでキーワード対話を、学期末にグループまたは個人でキーワード発表をします。

<授業の目標>

1. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について説明することができる。
2. 授業で扱う文化と社会に関する用語・考え方について、自分の体験を通して捉えることができる。
3. 文化や社会において生じる問題に適切に対処することができる
4. 文化・社会に関するトピックについて問いを立て、対話を通してその答えを探求することができる。

<授業の構成>

ワークや話し合いを中心に、1,2コマごとに1つのテーマを扱います。

授業の終わりには、学びを振り返り、その日の授業のテーマに関する自分の意見をまとめて提出します。

### 学習内容(予定)

コースの序盤では、ワークを通して文化についての基本的な用語や概念について理解します。コースの中盤では、アートから考える社会文化、現代社会から考える社会文化をテーマとしてワークやディスカッションをします。

10回には学部のゼミクラス、社会文化入門1・2・3・4クラスとの合同授業をします。

コースの終盤では、文化・社会に関するテーマについて自分たちで問いを立て発表します。

15回にはコース全体をクラスで振り返ります。

なお、校外授業として美術館訪問を行います。(通常のクラス授業の日時とは異なりますので注意してください)

### 教材

授業で配布、紹介します。

### 成績評価

授業参加度 10%

振り返り 30%

宿題(自己評価・他者評価シートの提出) 10%

課題 20% (キーワード対話)

最終課題 30% (キーワード発表)

### 履修上の注意点

- 1.課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
- 2.授業中の資料の配布やワークシートの提出はオンライン上 (google classroom)で行います。

時事日本語6・7 (b)	加藤 林太郎	2単位
		選択科目
		秋学期開講
		木曜日2限

使用言語 日本語

授業時間 週1回(90分×週1回×15週)

履修人数制限

履修希望者が15名を超える場合には、抽選で履修者を決めます。

授業概要

このコースでは、日本語で伝えられる日本や世界のニュースを見たり読んだりすることを通して、どのような言葉でニュースが伝えられているか、また、なぜそのような言葉が用いられるのかを考えます。それを通して、ニュースとその背景を深く理解し、今後自分でニュースを見たり、調べたりするときに必要な公正な視点を養うことを目指します。また、その視点をを用いて情報に接したり、関連する情報を探したり、あるいは自分からニュースを発信したりする際に必要な能力も身につけます。

到達目標

(1)言語能力(Linguistic Competence)

- ・日本語のニュースの聞き取りや日本語で書かれた記事を読んで理解できる。
- ・ニュースに関連する資料の大意が把握できる。
- ・母国語のニュース内容の要点を日本語に訳し、適切な文体で書くことができる。

(2) 社会言語能力 (Sociolinguistic Competence)

- ・報道に使われる語彙や表現、文体の特徴を理解する。
- ・ディスカッションにおいて相手や話題に応じた日本語を選ぶことができる。

(3) 社会文化能力(Sociocultural Competence)

- ・日本社会の時事問題やその背景を理解する。

- ・日本のニュースの伝え方を母国や他国と比較することで、日本社会への理解を深める。
- ・日本に関する報道を理解するための基本的な日本の社会常識を理解する。

### 学習内容(予定)

#### ①ニュースを読む・見る(4回)

※日本語の報道を読んだり見たりして、その表現上の特徴や内容について考えます

#### ②ニュースを調べる(5回)

※自分で興味のあるニュースを日本語で調べ、それについて発表します。

#### ③ニュースを比べる(5回+1回)

※自分が興味があるニュースを選び、母語と日本語の両方で調べ、発表します。

※最後の1回は調べたことをまとめ、発表します。

### 教材

Web上にある実際のニュースを教材として使用します。

また、授業ごとにスライドをgoogle driveで共有します。

### 成績評価

#### 【授業参加度 40%】

出席率:10% 授業態度:10% 課題提出率:20%

#### 【課題 60%】

平常課題:30% 最終課題:30%

### 履修上の注意点

1. 課題の提出期限を守ること。遅れた場合は減点の対象となります。
2. 授業の時間中にニュースに関する資料をインターネットで検索する必要があります。各自のノートPCやタブレットを持参してください。

# Japanese Sociolinguistics

2023 FALL SEMESTER

NAME OF COURSE: JAPANESE SOCIOLINGUISTICS B

INSTRUCTOR: Sau Kuen FAN, PH.D.

CREDITS: 2

## Course description

This course aims to introduce students to the field of sociolinguistics, with a special focus on sociolinguistic issues which are significant in the Japanese society. In this semester the focus will be placed on “Language behavior: politeness in Japanese”. More specifically, we will discuss the relationship between politeness and different types of language behavior, e.g. apologies, compliments, disagreements and complaints. We will also look at how politeness is manipulated in different communication situations such as first-time meetings. It is expected that through gaining basic knowledge about how Japanese language is used in the society, students can develop their ability and confidence to interact with Japanese native speakers.

## Language of instruction

While lectures will be mainly delivered in English, some competence in Japanese is required for participation in discussion due to the nature of the course (i.e. dealing with the use of Japanese in society). All written works should be submitted in English. Note that this is NOT a language course. Students can communicate with the lecturer freely in either English or Japanese and will not be assessed based on the level of language ability.

## Requirements

1. Students should be familiar with reading and writing academic papers in English. Non-native speakers of English who have achieved a score of 500 or above in TOEFL (or equivalent) are welcome. However, students who have never written an English report of at least 2000 words are not recommended to take this course.
2. No previous study of sociolinguistics or linguistics is required although experience of learning a foreign / second language and previous contact with Japanese native speakers is desirable.

## Quota for this course

A maximum number of 15.

## Class meetings

Tuesday Period 4 (14:50 - 16:20 Japan time)

## Method of presentation

Classes will be held face-to-face. Prior to the start of each class, students should go through the lecture notes and brainstorming Q&A provided by the lecturer in advance. In each class meeting, the lecturer will explain the main contents by showing power point slides. Students are encouraged to participate in discussion according to their own learning experience of Japanese. Students in the course will be provided opportunities to collect firsthand data from Japanese native speakers (mainly KUIS students) for the preparation of their final report.

## References

Lecture notes, readings for assignments and other references will be available in Google Classroom.

**Grading Policy**

Class participation and weekly feedback sheets	30%
Reading assignment	10%
Mini survey	10%
Presentation	10%
Final report (Portfolio)	40%

**2023年度 神田外語大学留学生別科 科目概要 選択科目**

2023年8月発行

編集・発行 神田外語大学留学生別科

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

無断転載を禁じます